

平成30年度 国際教育推進委員会活動報告

国際教育推進委員会

建元喜寿・田村憲司・深澤孝之・今野良祐・
吉田賢一・吉岡昌悟・福田美紀・高畑啓一・
吉岡 静・斎藤真吾・岩井香奈

本校では、11年前に国際教育推進委員会を発足してから、各方面で声高に叫ばれている「グローバル人材の育成」を目指し、筑波大学附属坂戸高等学校では総合学科の特長を生かしながらさまざまな国際教育・ESDの取り組みを行ってきた。平成26年度には、スーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定され、平成29年2月には国際バカロレア日本語DP認定校となり、平成30年度からその1期生が入学した。今後、本校の国際教育活動がどのように動いていくか、総合学科とIBの双方の良さを融合させながらすすめていくことになるが、今しばらく時間を要する。本稿では、本年度2回目を迎えた、第2回インドネシア日本高校生SDGsミーティングおよび、11回目を迎えた海外卒業研究支援制度を中心に報告した。

キーワード SGH 日本語DP 国際教育 ESD（持続発展教育） SDGs WWL

1. はじめに

筑波大学附属坂戸高等学校（以下「本校」）では、本校独自の取り組みである「国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム」、ブラジル、タイ、カナダ、台湾、インドネシアなど各国からの留学生の受け入れ、ユネスコスクールへの加盟、学校設定教科「国際」とその科目の設置、そして本校が主催する「高校生国際ESDシンポジウム」などを通して、総合学科高校だからこそ可能である多角的な国際教育のあり方を模索しながら実践を積み重ねてきた。そして、これまでの本校の実践の成果をベースとして、平成26年から5年間、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール校の指定を受けることになった。語学だけではなく、「グローバル社会において、自分は社会と将来どのようにかわり、平和で持続可能な社会を実現するために、自分は何ができるか。」を生徒自身が考え、実践できることを重視している。

1946年に地元の農業高校として発足してから70年あまり、1994年からは日本初発の総合学科高校のパイオニアとして20年以上歩みを重ね、平成26年度のSGH指定後は、総合学科を生かしたグローバル社会におけるキャリア教育の実践を積み重ねている。そしていよいよ、2018年4月には、国際バカロレア日本語DPの1期生が入学した。

2018年度はSGH指定の最終年度であった。ポスト

SGHを考えながら、「総合学科」+「SGH」+「IB」の学校運営の中で、国連持続開発目標SDGsを実現できる人材育成を目指し、筑坂（つくさか）の2030年の姿を考えながらの2018年度であった。本稿では、本年度、2回目を迎えたジャカルタにおける、第2回インドネシア日本高校生SDGsミーティングおよび、11回目を迎えた海外卒業研究支援制度を中心に報告する。



第2回インドネシア日本高校生SDGsミーティング
@ジャカルタ

—インドネシア6校、SGH校2校が参加—

（2018年8月9日）

於：インドネシア政府環境林業省本庁ホール）

2 第2回インドネシア日本高校生 SDGs ミーティング @ジャカルタ

SDGs とは、Sustainable Development Goals の略である。2015 年 9 月、ニューヨーク国連本部において開催された「国連持続可能な開発サミット」で、193 の加盟国によって「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ (2030 アジェンダ)」が、全会一致で採択された。この、2030 アジェンダでは、「誰一人取り残さない-No one will be left behind」を理念として、国際社会が 2030 年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針として、17 の目標 (ゴール) が持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals : SDGs) として設定された。

これまで日本国内では、本校と交流実績を持つ海外校との交流を深めて生徒の国際的な視野を広げるとともに、持続発展可能な社会を目指して地球的課題に主体的に取り組む姿勢を涵養することを目的として、2012 年から「高校生国際 ESD シンポジウム」を実施してきた。SGH 指定から組織した S-CIS (生徒国際教育委員会 : Student Committee of International Studies) のメンバー (本校の 1~3 年次生で国際教育活動に興味のある生徒が主体的に参加している) が中心となり、受付や会場設営、照明や視聴覚機材の操作、全体司会やシンポジウムのファシリテーターを行ってきた。この活動を海外にもひろげ、本校と海外の学校との実質的な交流を深め、さらには SGH の成果を国内だけではなく海外へも発信していくために、昨年度から、あらたな取り組みとして、「インドネシア日本高校生 SDGs ミーティング」を開始した。

2 回目となる本年度は、これまでの本校のインドネシアにおける実績から「日本インドネシア国交樹立 60 周年記念事業」の認定をうけ、平成 30 年 8 月 9 日、昨年に引き続き中央ジャカルタにあるインドネシア政府環境林業省のホールにおいて実施した。本大会でも、SDGs は、両国、各学校の ESD 活動をより具体的に位置づけ、それぞれの関連性を可視化するツールとして国を越えて機能した。

当日は、日本から本校、中部大学春日丘高等学校の SGH2 校、インドネシアからは、ボゴール農科大学附属コルニタ高等学校、インドネシア政府環境林業省附属林業高等学校、南タンゲラン第 2 高等学校、ブカシ国立第 1 高等学校、ダルマガ国立第 1 高等学校、ウムルクロ高等学校の計 6 校、計 8 校が参加して実施した。各学校の課題研究の発表を SDGs と関連付け、ポスターセッションも日本における大会と同様に行い、これまで国際で実施し

てきた ESD シンポジウムのノウハウを生かした国際シンポジウムを海外で運営することができた。来年度は SGH の指定が終了してしまうが、昨年度、本年度の海外における 2 回の開催県警を何らかの形で活かしていきたい。



日伊の高校生による SDGs 宣言

3 「国際的視野に立った卒業研究の支援プログラム」

平成 20 年度より実施しているこのプログラムは、3 年次の学校指定必修科目「卒業研究」で国際的なテーマを扱う研究を行う (または行おうとしている) 生徒に対し渡航費の援助を行うものである。20 年度から 29 年度までの 10 年間で計 60 名の生徒がこのプログラムに応募し、うち 19 名の生徒を引率教員とともに海外の各国へ送り出してきた。

30 年度においては 2 年次生を対象に 2 回募集した結果、のべで 6 名の生徒が応募した。なお、それぞれの生徒の研究テーマと応募理由は下記の通りであった。

	希望渡航先	研究テーマ
A	シンガポール	持続可能なツーリズムに関する研究
B	インドネシア	インドネシアの農村部の小学生を対象とした環境教育プログラムの開発
C	台湾	持続可能なツーリズムに関する研究
D	フィリピン	フェアトレードに関する研究
E	インドネシア	インドネシアの農村部の小学生を対象とした環境教育プログラムの開発
F	シンガポール	海運に関する研究

CIS において「海外への渡航により卒業研究の深化が十分期待できるか」「費用に問題はないか」「実現可能性は十分か」などの観点から書類及び各生徒によるプレゼンテーションにより選考を行った結果、生徒 A の 1 名を支援対象とすることに決定した。このプログラムは、国や地域は指定せずに実施してきたが、毎年、予算が厳しくなってくる中で、遠方への派遣が厳しいこと、また 2 年次「T-GAP」でアセアンに関する活動を行っていることから、本年度も渡航先をアセアン+2 (中国・韓国) に限ることとした。

4 生徒の変容について

SGH 指定最終年となり、全校を対象にした国際教育活動も浸透してきた。生徒の変容に関しては、詳細は本校の SGH 報告書に譲るが、文部科学省が SGH の成果指標にしている「卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力として CEFR の B1～B2 レベルの生徒の割合」は、指定前はわずかに3%であったが、とくに SGH 指定後に新設した SG クラスは、英検 2 級取得者が大幅に増加し、英検準 1 級合格者だけではなく 1 級合格者もでた。さらに、CEFR も B1～B2 レベルも 80%に達した。

現在、本校だけではなく、国際連携協定校の生徒の変容も測定を開始している。附属学校群の国際教育の成果が、学校群や国内にとどまらず、世界に波及していく様子もとらえていきたい。

本年度の研究大会では、卒業生のパネルディスカッションを実施した。大学入学後に海外に留学したり、国際交流基金の「日本語パートナーズ事業」により日本語教師として、タイ・インドネシア等の国で日本語教師として活躍する卒業生もでている。商社に就職し、海外での活動を開始する卒業生もいる。これらの先輩の活躍は、生徒の良きロールモデルであるといえる。今後、このような卒業生の追跡調査も含めて、生徒の変容をとらえていきたい。

5 おわりに

1946年に地元の農業高校として発足してから70年、1994年からは日本初発の総合学科高校のパイオニアとして20年以上歩みを重ね、平成26年度のSGH指定後は、総合学科を生かしたグローバル社会におけるキャリア教育の実践を積み重ねてきた。そして、2018年4月から、国際バカロレア日本語DPの1期生が入学した。

本校の国際教育は、これまでブラジル、タイ、カナダ、台湾、インドネシアなど各国からの留学生の受け入れ、

ユネスコスクールへの加盟、学校設定教科「国際」とその科目の設置、そして本校が主催する「高校生国際 ESD シンポジウム」などを通して、総合学科高校だからこそ可能である多角的な国際教育のあり方を模索しながら実践を積み重ねてきた。

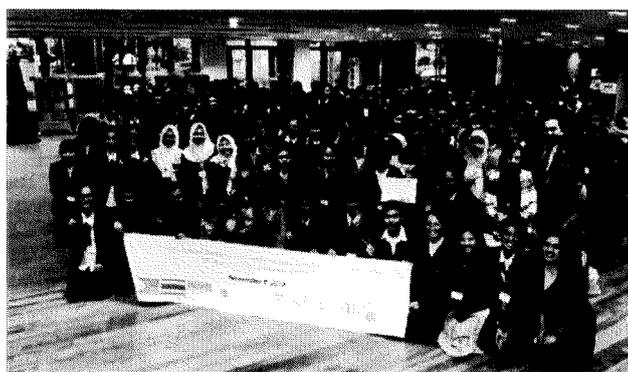
2019年度からは3年間、WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の拠点校として事業を担うこととなった。「総合学科」+「SGH」+「IB」の学校運営の中で、筑坂（つくさか）の良さを活かした、国際教育を来年度以降も展開していきたい。



愛媛大学附属高校との連携による国際交流



愛媛大附・本校・国際連携校合同ミーティング



第7回高校生国際ESDシンポジウム・第4回全国SGH校生徒成果発表会は本年度も満員の参加



企業連携例（アジアペーパーアンドパルプ社）

※なお、SGHの平成30年度の内容は、第5年次報告として別途まとめている。SGHの詳細については、そちらを参照ねがう。

【資料】平成30年度 国際教育・ESD 活動一覧

月	内 容
4月	1年次SGクラス「グローバルパスポート」(1単位)開講
4月	タイから1名の留学生在来校(8カ月)
6月	「関東甲信越北陸地区SGH高校課題研究発表会(北陸新幹線サミット)」へ生徒17名参加
6月	AIMSプログラム筑波大学留学生34名来校・1・2年次生と交流
6月	さくらサイエンスプラン・ハイスクールプログラムでインドネシア高校生来校
6月	フィリピン、インドネシアの姉妹校に1年間留学していた2名が帰国
7月	韓国ユネスコ国内委員会招へい日本教職員韓国派遣プログラム 教員1名参加
7月	3年生2名が姉妹校ボゴール農科大学附属コルニタ高校に1年留学へ
7月	3年生1名が姉妹校インドネシア環境林業省附属高校に1年留学へ
7月	1年生1名がアメリカ高校に1年留学へ
8月	国際フィールドワーク(インドネシア)実施 生徒7名教員2名参加
8月	第2回日本インドネシア高校生SDGsミーティング@ジャカルタ開催
8月	国際フィールドワーク入門(黒姫高原)実施 生徒29名、教員3名、筑波大学留学生2名参加
8月	教員2名が海外校外学習視察・現地打ち合わせでバンクーバーに渡航
9月	台湾・デンマークから2名の留学生在来校(1年間)
10月	姉妹校コルニタ高校から7名の留学生在来校(3週間)
10月	福井県立高志高等学校生徒25名、教員2名来校
10月	京畿外国語高等学校生徒55名、教員5名来校
10月	インドネシア・アルファセンタウリ高校 生徒22名、教員4名が来校
11月	台湾・小港高級中学 生徒11名、教員2名が来校
11月	インドネシア・フィリピン・タイより生徒11名・教員5名ホームステイ受け入れ
11月	第7回高校生国際ESDシンポジウムを開催
11月	第4回SGH生徒成果発表会開催 海外校・SGH校20校によるポスターセッション
12月	SGH全国高校生フォーラムにて3年生1名がポスター発表
12月	フィリピン大学附属ルーラル高校スタディツアー 生徒4名、教員1名が来校
1月	東京学芸大学主催SSH/SGH課題研究成果発表会 生徒8名、教員1名参加
1月	タイ・カセサート大学附属高校カンペンセン校舎 教員2名訪問・研究協議
2月	第5回SGH研究大会・第22回総合学科研究大会を開催
2月	関東地方ESD活動支援センター 地域意見交換会 in 埼玉 2019 を開催
3月	1年次海外校外学習(カナダ・バンクーバー)実施
3月	「国際的な視野に立った卒業研究支援P」 生徒1名・教員2名がシンガポール渡航